

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上ひろみ	法人・ 事業所 の特徴	法人理念の一つである「その人らしく生きる」ことを大切に援助を行います。 自宅での生活を続けるうえでニーズに合った援助と、出来るだけ自立した生活を行えるように援助を行っていきます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 金閣こぶしの里	管理者	山下治輝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	2人	2人	1人	人	20人	人	26人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	モニタリングでは全体の振り返りと共に個別ケースを集中議論もしていく。ミーティングに出られる職員は全員が参加する。	概ね実施するところが出来た。会議の出席率が下がっている事は心配だが、より多くの議論の場が確保し続けたい。	アンケート結果からも個人ケースの認識の差は大きい。援助に対するプランの理解とフィードバック出来ればより良い。	全職員で全利用者のアセスメントとケアプランを再度回覧で読み込み。個別に持っている利用者のエピソードも再集約する。
B. 事業所のしつらえ・環境	環境整備委員会の継続。課題の緊急性に応じて委員会やミーティング・職員会議などに提案する場を柔軟に変更する。	環境面ではそれぞれの気付き改善して来れている。定期的な意見収集の場をもっと確保できるといい。	努力が環境面に反映されている。	清潔感の保持を委員会が中心になって維持する。
C. 事業所と地域のかかわり	町内会からの回覧板を受け取り職員に周知。地蔵盆など行事に参加していく。近隣にチラシなどを配布する。	回覧板は賛助会員は受け取りが難しいと会長さんより返答。ただ、年内行事などを別途で教えていただくことが出来た。	継続した関わりを行い。双方でもかかわりあえる場をもっとあればなおいいと思う。	広報部門の立ち上げ。掲示板やチラシを利用して地域への事業所の発信を行う。快く迎え入れてくれた地蔵盆に多くの利用者と参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方も大きな社会資源という学びを深め、地域でのその方の様子を会議等で集中論議し深めていく。	学習会を実施し学ぶ機会を作ることはできた。ただ、浸透には様々な場面からの継続したアプローチが必要。	学習会の担当者を普段意識しづらいと感じている職員が手伝うこともいいかもしれない。	サービス連絡会に固定の職員以外の参加を増やす。地域密着協の学習会にも参加の頻度を増やしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	近隣の方にも参加の声掛けを行っていく。地域の役員の方の窓口になっている方などの情報をもっと得る。	予定が合わず参加の拡大には至らず。ただ、声を掛け合う関係の構築には一定の進展があった。	参加の促しがあることで、どんなことをしようとしているかをわかるきっかけにはなったと感じる。	家族へ参加の促しの拡大を行う。より多くの地域の情報を共有していく。
F. 事業所の防災・災害対策	備蓄の具体化。消防訓練にも近隣の方に声掛けし、事業所だけで完結しない地域を巻き込んだ取り組みを目指す。	消防訓練を地域の方が見えるよう通りに面してするなど出来た。	日頃の意識が最も大切。災害時に協力できる関係づくりも非常に重要。	停電時の備えに対して備品を揃える。避難訓練を地域の方を巻き込んだ実施を行う。